

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

※協議会員数 11名
地域づくり協議会役員(1名)
育友会役員(3名)
区長会代表(1名)
同窓会役員(1名)、公民館長(1名)
学校代表(4名)
※地域コーディネーター
(2名:地域づくり協議会役員、公民館長)

(2) 協議会の内容

- ① 第1回協議会 (6月)
・スクールプラン、学校評価計画について
- ② 第2回協議会 (12月)
・学校評価の中間報告について
- ③ 第3回協議会 (2月)
・学校評価と学校改善について

(3) 協議会における成果と課題

学校教育目標を伝え、地域の宝である子供をよりよく育てるために協議を図る重要な場となっている。特に、意見交換の中で、学校と地域で子供の様子が異なることなどから課題が明確となったり、学校改善への助言や協力をいただいたりする重要な機会となっている。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

地域の自然や人々など様々なふれあいを通して、ふるさとを誇りに思い、地域や社会に貢献する子供を育てる。

(2) 活動の実際

① 「三宅のお宝発見！」(3学年)

各集落の探検を通して、「熊野神社」や名水100選の「瓜割りの滝」などを実際に巡って、発見したことを互いに交流し合う中で、身近に豊かな自然があることに気づいたり、それらを大切に守っていこうと努力する地域の人の思いにふれたりすることができた。

② 三世代交流まつり(全学年)

地区の各種団体の協力の下、地域一体となった交流を図った。地域の方と一緒に育て収穫したもち米や白ネギの販売、ゲームコーナー、舞台発表など児童が企画・運営する活動や、地域の講師による昔遊びやネイチャークラフト・貝殻ろうそくづくりなど、様々な充実した交流活動を実施することができた。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

各学年の農業体験や三世代交流まつりなどで、物資の工面、企画から運営に至るまで、何度も連絡を密にしながら、学校と地域の方々の橋渡し役となり、協力していただいた。

(4) 特に工夫した事項

学校だよりやホームページで活動の様子を広報した。地域の様々な方々が関わり協力していただいていることや学校教育の充実が図られていることがよく伝わった。

(5) 成果と課題

学校評価の結果から「地域の先生に教えてもらう学習は楽しくてよく分かる」と全ての児童(100%)が答えていることから、学校教育の充実が効果的であったと思われる。

今後は、学習時間の確保や、体験活動がさらなる学びの深化につながるよう活動の検証・と改善を絶えず図っていきたい。

(様式 3)